

西播の蝶分布資料 (5)

赤相の蝶類

岩 村 巖

Some note on the Butterfly Fauna of Southwest Hyogo-pref (5)

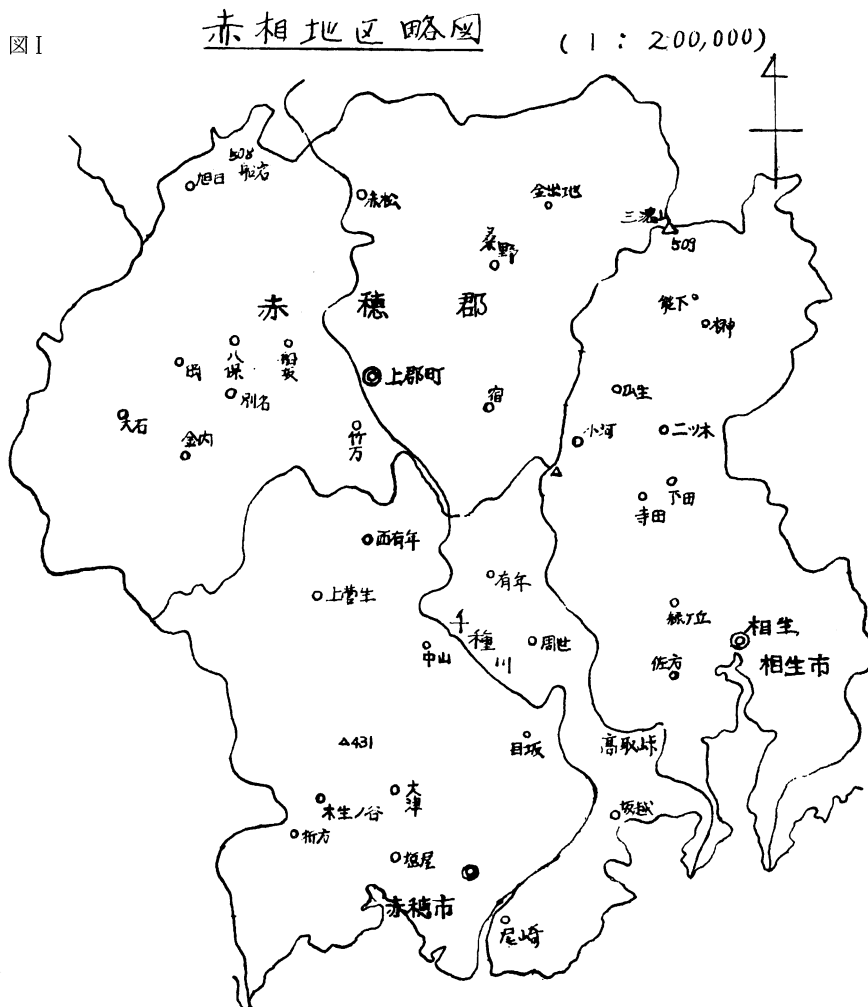
by Iwao Iwamura

(The Butterfly Fauna of Akō-shi, Aioishi and Akō-gun)

I) はじめに

県下の蝶の分布に関する文献はこれまでも相当数のものが発表されているが、その大部分が姫路以東の県下

中東部に限られ、西播に関するものは極めて少ない。これは西播の大部分の所が交通の不便な辺地であり、採集地まで到達するのに相当の時間を要することもさること



ながら、もっと大きな原因は当地方に同好の志が少なすぎることにあるようである。西播が以上のべたような現状である関係上、兵庫県下における蝶相を論ずる場合、いつでも問題になるのは西播のそれであり、当地方の蝶相が判明するならば、県下の瀬戸内側の蝶相のアウトラインがうかびあがることになるのである。

私は昭和37年、兵庫県立赤穂高等学校に赴任したのを幸いに、以来5年間にわたってこれら西播の内、赤相地区（赤穂市・相生市・赤穂郡の2市1郡をさす）の調査を試みてきたのであるが、その断片的な事項に関しては、これまでもその都度報告しておいた。何分にも一口に赤相地区といっても、その面積は相当に広く、当初はなかなかその成果はあがらなかったのであるが、幸い一昨年（昭和39年）の春、赤相地区に同好会が誕生し、これら諸氏の協力もあってこの度当地方に産する蝶相に関するアウトラインが明瞭になってきたのを機会に、これまでの研究結果をまとめてみることにする。

Ⅱ] 蝶相概観

当地方は広さの割合には平地が少なく、赤穂市と相生市の市街地を除くと、この地方を東西に走る国道2号線と、赤穂郡から赤穂市にかけてその中央部を縦断し、瀬戸内海にそそぐ千種川流域、赤穂市福浦地区および相生市を流れる矢野川流域などに比較的広い平地が開けている以外、その大部分が低い山地帯になっている。また、これら低い山々は海岸線にまで迫っている所が多く、山の北側に平地が開けているような所も所々にある。しかもこれら山々に生えている植物相はいたって単調であり、瀬戸内海沿岸の山地帯であればたいがいそうであるように、小さなクロマツやツツジなどの小灌木で被われている所が多く、したがって、これら海岸線に棲息している蝶の種類数も限られている。しかしその反面、北部の山麓（相生市瓜生、同小河、同森、同柳、赤穂市周世、同中山、上郡町金出地、同野桑、同大杉野、同赤松など）や、海岸近くでも赤穂市大津、同尾崎、同坂越などの比較的水の多い所では、クスギ、コナラ、アカガシ、ナラガシワなどの絶好の蝶の食草となる潤葉樹が生えている所があり、したがって、こういう所ではこれらを食べ生活しているオオミドリジミを筆頭に、Favonius属、Japonica属、Antigius属、Wagimo属等の、いわゆる Zehyrus とよばれるグループの姿を見うけることができる。これらの中にはウラキンジミ、ウラミスジジミ、ヒロオビミドリジミなどの比較的珍らしい種類も発見されている。一方海岸地方においては南向きの斜面を利用して、ミカン、ダイダイなどのカンキツ類の栽培が盛んにおこなわれており、したがって、これらの地区においてはカンキツ類を食草とするモンキアゲハ、クロアゲハ、ナミアゲハ、カラスアゲハなどの

Papilio 属の個体数が相当に多く、中にはナガサキアゲハなどの特筆に値する種類も見つかっている。またこのほか、これまで県下においては比較的山地に入らなければ発見することの出来ないと考えられていたヒメヒカゲやスジボソヤマキチョウが、海に面した相生市天下台、同市千尋、赤穂市尾崎などの地方で発見され、当地の海岸ぞいの地方が県下の同じような地形の所とは、その生成上においてややおもむきをことにしているのではないかという興味ある問題も生じてきた。さらにまた、県下においてはこれまでに2頭しか採集されたという記録が残っていないムラサキツバメシジミが相生市矢野で、産地が局在しているために比較的成虫の姿を見る機会の少ないクロツバメシジミが、赤穂市加里屋や赤穂郡上郡町鍋倉で発見されるなど、分布上興味のあるデータも得られている。

Ⅲ] 主なる種類の分布

1. *Aeromachus inachus* Menetries

(ホンチャパネセセリ)

近畿地方においてこれまでに本種が採集されているのは兵庫県のみであり、しかも、それも中央部の高地帯にその産地が集中しているようである。当地方に一番近い既産地は雪彦山であるが、同地においても多くない。全国的に見た場合もその分布は比較的狭く、北海道、四国、九州からは知られていない。

当地においてもその個体数は少なく、最近になって赤穂郡上郡町大杉野において木下氏により発見されたという1♂の記録があるのみである。中国地方の各県下におけるこれまでの採集記録から推察して年2回の発生であろうが詳細は不明である。

本種は、わが国に産するセセリチョウの内にあつては最も小さい種類であり、飛躍中はハエではないかと思えさうほどであり、初心者ではなかなか発見がむづかしいであろう。

○1966.7.3, 1♂, 1, +, 赤穂郡大杉野(木下)

○1966.7.3, 1?, 目撃, " (米村)

2. *Isoteinon lamprospilus* C. et R. Felder

(ホソバセセリ)

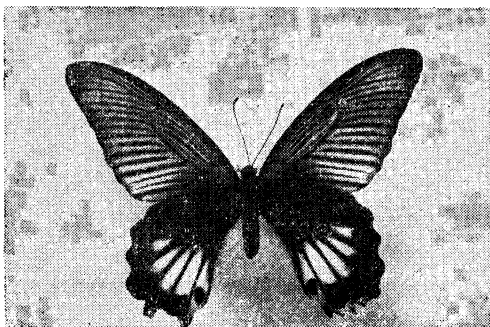
当地方においては比較的まれな種であり、その産地は局在している。現在までのところ赤穂市尾崎、相生市陸、同竜山公園、同瓜生、同古池、同大谷町天下台裏山、同小山町、同大谷町相生中学裏山などで採集された記録が残っているが、個体数は多くないようである。7月上旬頃よりその姿を見うけるが中旬頃が多いようで、この時期の採集記録が比較的多い。本種の食草は他のセセリチョウと同様イネ科植物であるが、他の蝶のようにいろんなものを食べることはせず、自然状態においてはススキのみを食するようであるから、本種の姿をさがす

にはススキの生えている荒地をさがすのが最大の近道であろう。成虫の飛び方は他のセセリに比較するとややゆるやかであり、採集は比較的容易である。

- 1956.7.11, 1♂, 1♀, 相生市大谷町天下台(米村)
- 1956.8.1, 1♂, 相生市古池(唐土)
- 1966.7.10, 1♂, 相生市陸(中浜)
- 1966.7.12, 2♂♀?, 0, 相生市小山町(花岡)
- 1966.7.12, 1♂, 相生市陸(中浜)
- 1966.7.12, 1♂, 相生市竜山公園(中浜)
- 1966.7.13, 1♀, 相生市天野町瓜生(中浜)

3. *Papilio memnon thunbergii* von Siebold (ナガサキアゲハ)

本種は、わが国に産する唯一の無尾型アゲハチョウであり、その斑紋が特異的(特に♀において)であるがために同定上の困難性はないであろう。モンキアゲハとともにわが国に産する南方系の蝶の一つであり、現在、四国、九州には普通に見られ、本州においても山口、広島両県下には土着しているとのことである。その他にも島根、鳥取、大阪などの府県下においても採集された記録が残っており、最近兵庫県下においてもある程度の個体が採集されるようになってきている。特に淡路島においては確実に土着していることが確認されており、南方系の蝶の一般的傾向から見て、今後ますます産地が増加することと想像される。当地方においては現在までのところ1♂, 1♀の採集例と、1♂の目撃記録が残っているが、前二者については以前に報告しておいた。山本氏の報告によれば、当赤穂市は淡路島の産地に比して冬期の気温が比較的低いとのことであり、本種の土着が冬期の低温によって左右されることからして、当地方での本種の土着は今のところ望みなしとのことであった。したがって、この度のこれら採集個体は一時的に飛来した母蝶か、またはそれを母蝶とする次の世代の成虫である可能性が大きく、春期に採集個体のないことや、当地方には野生のミカン類が少なく、採培されているミカン類は相当数あるにもかかわらず、これらは年数回殺虫剤を散布していることなどから判断して、いっそうその観が強



写真① ナガサキアゲハ ♀表

い。南方の南西諸島においては3月頃より第1化があらわれ、以後5~6回程度の発生をくり返しており、奄美大島や屋久島においてはモンキアゲハなどともにもっとも普通な蝶の一種となる。

- 1961.7.下旬, 1♀, 1, 赤穂市尾崎(北条)
- 1961.8.上旬, 1♂, 3, " (花房)
- 1965.9.19, 1♂, ?, 目撃 " (勝川)

4. *Papilio maackii tutanus* Fenton (ミヤマカラスアゲハ)

カラスアゲハに比してより山地性となり、その個体数もより少ないがために当地方のような低地の多い地方においては採集することがむづかしく、採集目撃例をすべて含めて現在までのところ下記の数例にすぎないが、県下における近縁の分布状態から見て産することはまず間違いのない事実である。春型の姿は当地においては少ないながら5月中旬頃より見られ、年2回の発生を行なうらしく、7~8月にかけては大型の夏型の姿を見うけることが出来る。

- 1957.8.1, 1♂, 相生市矢野町三濃山(唐土)
- 1963.6.9, 1♀, " (")
- 1963.4.29, 1♂, +, 0, " (岩村)

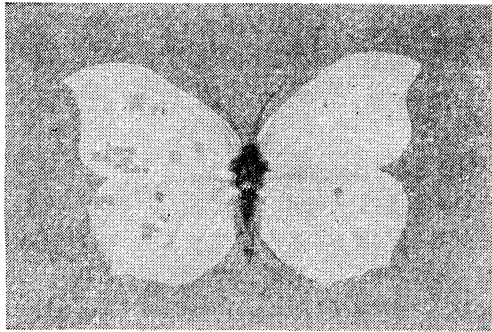
5. *Gonepteryx mahaguru nipponica* Verity (スジボソヤマキチョウ)

本州中部地方においては餓産する本種も、より南部の近畿、中国においては山地帯にのみ見られる稀種となり、個体数もそれほど多くなくなる。当地方においては赤穂郡上郡町大杉野、同鞍居、富満、相生市矢野町三濃山、赤穂市尾崎で採集された記録が残っているが、最後の尾崎を除いてはいずれも当地方においては山地帯と考えられている所である。ただ尾崎に関しては極めて海に近い所であり、今まで県下でもこのような海に近い所で採集された記録が残っていないことからして、特異的な存在となるけれども、本種の習性から考えて、遠くへ移動するようなことは考えられず、おそらく同地に定着しているものと考えられる。

年1回の発生で西播では6月中旬より現われるが、採集される個体はこの成虫が夏眠して後、再び活動を開始する9月下旬~10月にかけてが多いようである。また、春4月~5月にかけて山地をあるけば越冬した前年度の成虫に出くわすこともしばしばあり、この場合には破損個体が多い。食草はクロウメドキ、コバノクロウメドキなどが知られており、ヤマキチョウのようにクロツバラ(本州の中部および東北地方の山野に自生)のみを食するというようなことはない。幼虫は第5令で終令となり、越冬態は成虫である。

- 1962.10.21, 1♂, 相生市矢野町三濃山(唐土)
- 1963.3.30, 1♂, 赤穂郡上郡町鍋倉(岩村)

- 1963.9.6, 1♀, 赤穂市尾崎 (北条)
- 1963.9.23, 4♀♀, 2♂♂, 相生市矢野町三濃山 (唐土)
- 1963.9.28, 4♂♂, 1♀, 0~1, 矢野町三濃山 (米村)
- 1965.7.28, 3♂♂, 0, 相生市矢野町三濃山 (米村)
- 1966.10.3, 3♂♂, 1♀, 0~2, 赤穂郡上郡町大杉野 (米村)
- 1966.10.3, 2♂♂, 2♀♀, 0~1, 赤穂郡上郡町大杉野 (中浜)
- 1966.10.3, 3♂♂, 1♀, 0~1, 赤穂郡上郡町大杉野 (根来)
- 1966.10.3, 2♂♂, 0~1, 赤穂郡上郡町大杉野 (豆鞆)



写真② スジボソヤマキチョウ ♂表

6. *Antigius butleri* Eenton

(ウスイロオナガシジミ)

当地方に産するオナガシジミのグループは、その食草の関係から(クスギ、コナラなどのブナ科植物)ごく最近までミズイロオナガシジミしか知られていなかったのであるが、本年(1966年)に入って相生市北部の三濃山麓や、赤穂郡北部の山地帯にナラガシワの林が見つかり、これらの地方に本種の姿が見られることが知られるに至った。産地(第2図参照)は相生市矢野町小河より赤穂郡上郡町鞍居にかけての一带であるが個体数は多くないようで、現在までに10匹近くが採集されているにすぎない。ミズイロオナガシジミと同様年1回の発生であり、時期も同じ6月下旬頃にナラガシワの樹上でその姿をみうけることが出来る。

- 1966.6.19, 2♂♂, 0, +, 赤穂郡上郡町小野豆 (唐土)
- 1966.7.3, 1♀, 2, +, " (木下)
- 1966.7.3, 1♀, 2, +, " (米村)
- 1966.7.3, 1♀, 3, 赤穂郡上郡町野桑 (米村)

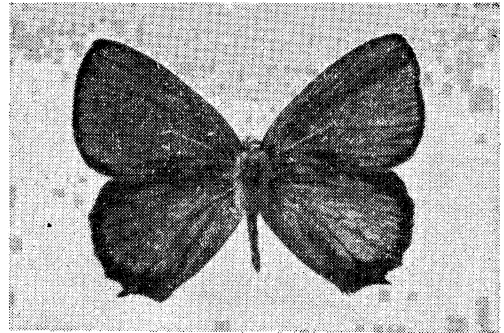
7. *Favonius saphirinus* Staudinger

(ウラジロミドリシジミ)

ウスイロオナガシジミと同様、最近になって発見された種類であり、三濃山麓にみられるナラガシワの樹上で見られるが、個体数はそれほど多くない。飛やくはそれほど活発でなく、特に♀においてはその傾向が強いので、たたき出せば下にまいおりてくることも多い。

年1回の発生であり6月下旬頃成虫の姿を見うけることが出来るが、当地方においてはその個体数は多くない。北部の佐用郡などのナラガシワ林にあつては最も普通に見られるゼフィルスの一つとなるのであるが、当地方においては食草が少なくせいであろうか、個体数は少ない。卵態越冬であり幼虫令数は4令である。

- 1966.6.19, 1♂, 0, +, 相生市矢野町小河 (唐土)
- 1966.6.19, 1♂, 1♀, 0, +, 赤穂郡上郡町小野豆 (唐土)
- 1966.6.20, 1♂, 0, +, 相生市矢野町小河(米村)
- 1966.6.21, 1♀, 0, +, " (")
- 1966.7.3, 1♀, 0, +, " (唐土)
- 1966.7.3, 1♀, 0, +, 赤穂郡上郡町小野豆 (米村)
- 1966.6.23, 1♂, 2, +, 相生市矢野町小河 (花岡)
- 1966.6.26, 2♂♂, 2♀♀, 1~2, +, 相生市矢野町小河 (")



写真③ ウラジロミドリシジミ ♂表

8. *Ussuriana stygiana* Butler

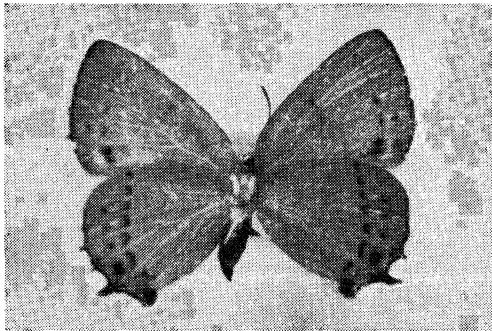
(ウラキンシジミ)

一般に山地性の蝶として知られている本種が、当地方のような海岸線に産することは興味深いことである。本種は日本の特産種であり、北海道をはじめとして本州、四国、九州に分布していることが知られているが、1カ所に多産するというようなことはない。県下におけるこれまでの産地の主なものとしては神戸市妙法寺付近、同摩耶中腹、水上郡春日部、佐用郡円光寺、山崎町五十波、神戸市青谷、同有馬、同島原、同大池、同山の街な

どで、また西脇市でも採集されており、県下においては相当広範囲にわたって分布しているものと思われる。

赤穂地区におけるこれまでの産地は赤穂市尾崎、同周世～有年間、相生市千尋、同川原町、同大谷町などのほか、相生市北部の山々であるが、これらのうち千尋にはやや多産する以外、いずれの地においてもその個体数は少ない。産地では6月上旬よりえられ、6月中旬頃がその最盛期であるらしく、7月に入ってもその姿を見うけることもあるが、6月下旬をすぎると大破個体が多くなる。中部地方の産地においては7月中～下旬にかけてが最盛期であるからして、これらの山地帯に比べて約1ヵ月発生が早いことになる。本種の食草はトリネコであり、当地においては所々の雑木林中で見つけることが出来るからして、くわしく調査を行なえば、さらに新しい産地が発見されるものと思われる。成虫の発生時期にちょうど満開となるクリの花などに吸蜜にやって来る場合も多く、産地のクリの花をたたけば本種の飛び出すのがみられる。

- 1956.6.29, 1♀, 0, 相生市川原町 (唐土)
- 1963.6.6, 1♂, 0, +, 赤穂市尾崎 (西垣)
- 1963.6.11, 1♂, 0, +, " (岩村)
- 1963.6.15, 1♂, 0, +, " (西垣)
- 1964.6.13, 2♂♂, 2♀♀, 0~2, 卅, 相生市千尋 (岩村)
- 1965.6.15, 1♂, 1♀, 0~1, +, 赤穂市周世 (")
- 1965.6.18, 1♀, 0, +, 赤穂市尾崎 (")
- 1966.6.19, 1♂, 0, +, 相生市光明山 (")



写真④ ウラキシジミ ♀裏

9. *Wagimo signata* Butler

(ウラミスジジミ)

北海道、本州、九州に分布していることが知られているが産地が極限されており、しかもその個体数が少ないために、わが国に産する蝶の中にあっては珍しい種類の一つに数えられている。本種はこれまで当地方においては1956.8.5, 相生市矢野町で1♂, 1♀の採集記録があるのみで、他の地方においては採集された記録がな

ったのであるが、本年に入って10年ぶりに相生市北部一帯および赤穂郡上郡町の一部で発見された。産地は小河、瓜生などのいずれも三濃山麓であるが、今後さらに調査を続ければ新産地が見つかる公算が大である。

本種の年間発生回数は1回であり、県下における他の採集地の記録(六甲山麓、再度山、摩耶山麓中腹、養父郡大屋町などで採集されており、また最近、神戸裏山の布引、平野、住吉川の上流でも採集され、その個体数も少なくないとのことである)から推測すると、その最盛期は7月上旬とのことである。当地方においても6月下旬~7月上旬にかけて採集されており、7月上旬頃がその最盛期であるように思われる。

- 1966.6.26, 2♂♂, 1, 相生市小河 (花岡)
- 1966.7.3, 1♀, 0, 相生市野桑 (米村)
- 1966.7.5, 2♀♀, 0, 相生市瓜生 (唐土)
- 1966.7.6, 1♀, 1, " (米村)
- 1966.8.5, 1♂, 1♀, " (橋本)

10. *Favonius latifasciatus* Shirozu et Hayashi

(ヒロオビミドリシジミ)

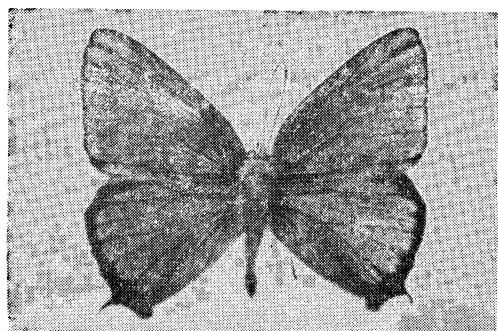
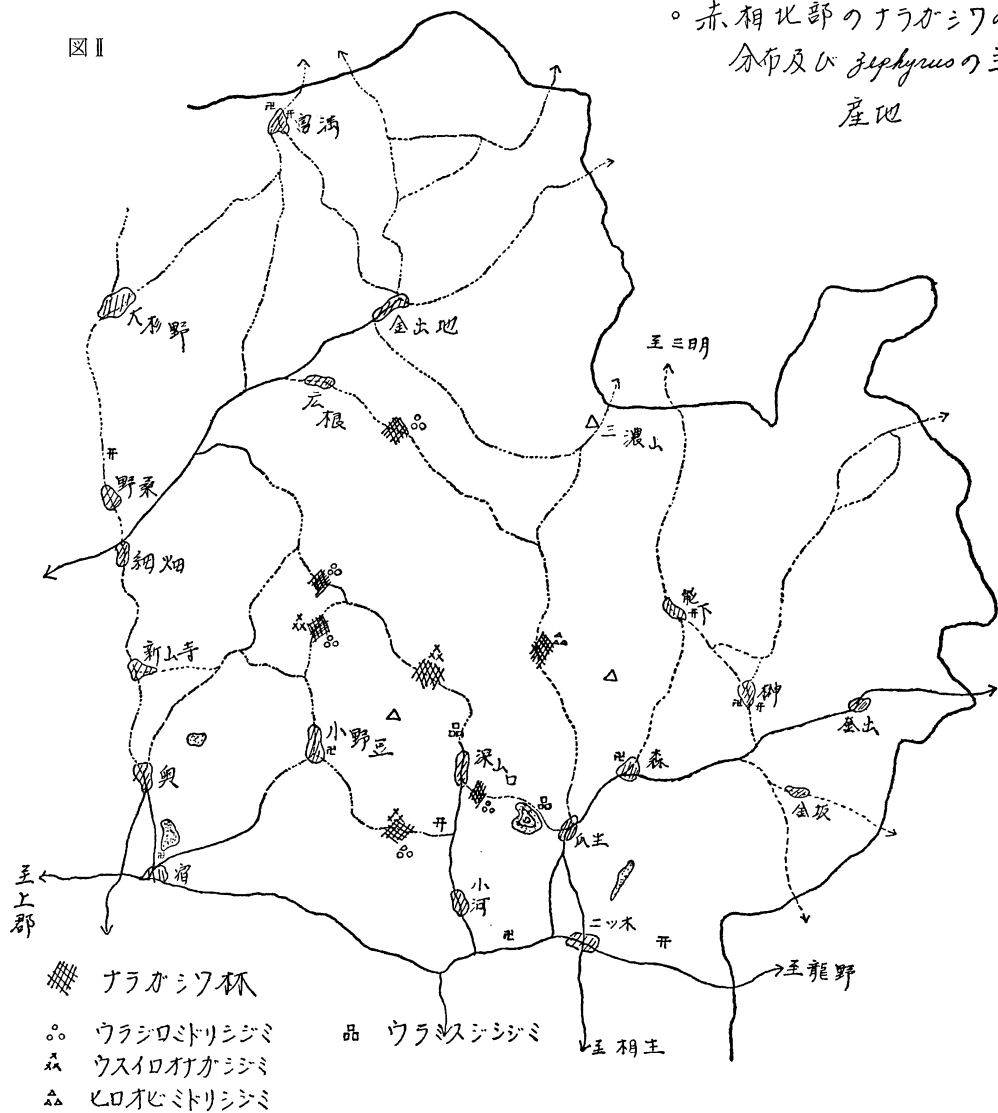
本種はその特徴が近縁のエゾミドリシジミやオオミドリシジミに大変似ているがために、今までこれら近縁の種と混同され、ごく最近になってからこれら近縁の種より分離され新種として記載されたものである。

本種ヒロオビミドリシジミは現在兵庫県をはじめ山口県、広島県、岡山県、鳥取県など西日本全域に広く分布していることが知られており、本県においても佐用郡上月町がその産地として古くから有名である。現在までの調査によって県下の佐用郡一帯には広く分布していることが判明したが(佐用郡上石井、同海内、同青木、同水根、同渋谷、同三原、同奥海、同桑村などで、これらに関しては“西播におけるヒロオビミドリシジミの分布に関して”兵庫生物, Vol. 6, No. 1, を参照されたい)赤穂市、赤穂郡、相生市においては食草のナラガシワ林が少ないがためにその産地は局在し、現在までのところ赤穂郡上郡町富満、同大杉野、相生市矢野町三濃山山道付近の3ヵ所のみであり、しかもこれら地方においてもナラガシワが少ないがために個体数は多くない。年1回の発生で成虫の姿は6月中旬より現われ、♀は7月に入っても見うけることが出来るが、その最盛期は6月20日前後である。最近相生市内でもナラガシワが比較的生えている所が見つかっており(相生市矢野町小河)、新産地の発見が大いに期待されている。

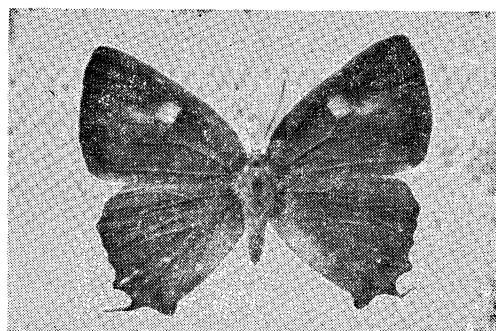
- 1963.6.15, 2♀♀, 5♂♂, 0~1, 卅, 赤穂郡上郡町大杉野 (岩村)
- 1963.6.16, 1♀, 4♂♂, 0~1, 卅, " (")

○1963.6.16, 3♀♀, 2♂♂, 相生市矢野町瓜生
(岩村)

図II



写真⑥ ヒロオビミドリシジミ ♂表



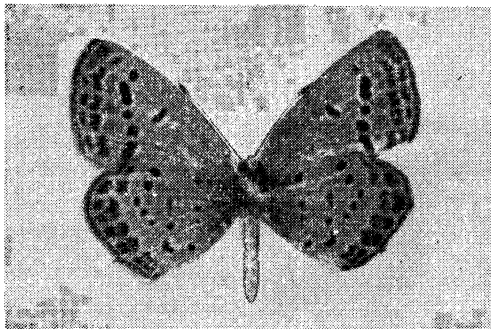
写真⑦ ヒロオビミドリシジミ ♀表

11. *Tongeia fischeri* Eversmann

(クロツバメシジミ)

県下においては小野市、道場、山崎町、最近では三木市などにおいても産地が知られるに至っている。近隣の岡山県にも産することが知られており、それに近接している当地方においても前々から本種の産することが予想されていたのであるが、この度赤穂市の町中で多産することが判明した(西播の蝶分布資料(4), 1965.11.5, 参照)。本種の食草はツメレンゲ、イワレンゲなどのベンケイソウ科であり、これら食草が民家の屋根の上や岩山に多く生えているところからして、本種もそういう所に産する機会が多く、この度の当地の産地も赤穂市内の民家の屋根の上で発生していることが観察された。長野県などの北部の産地においては年3回の発生(5月、7月9月)とのことであるが、この度の当地方における観察においては成虫は5月と7月にその姿をあらわし、9月に採集された記録は残っていない。食草の姿は市内の尾崎、御崎や千種川周辺に点存する部落内においても見られるところからして、今後調査すれば、さらにその産地は広がるであろうことは十分に考えられるが、最近の新築ブームで古い家屋が次第にその姿を消しつつある現在、やがてはその食草をうばわれて絶滅してしまうのではないかと心配される。

- 1964.7.19, 7♂♂, 5♀♀, 0~1, 卍, 赤穂市加里屋 (岩村)
- 1964.7.20, 5♂♂, 2♀♀, 0~1, 卍, " (西垣)
- 1964.7.21, 3♂♂, 1♀, 0~1, 卍, " (岩村)
- 1964.7.22, 1♂, 1♀, 0~1, 卍, " (")
- 1966.5.1, 1♀, 0, +, 赤穂郡上郡町鍋倉 (唐士)



写真⑥ クロツバメシジミ ♀裏

12. *Narathura bazalus turbata* Butler

(ムラサキツバメシジミ)

わが国に産する *Narathura* 属は本種を含めて全部で

2種であるが(他の1種はムラサキシジミ)同属のムラサキシジミに比してより暖地性の種となり、四国、九州あたりでは比較的普通種とされているにもかかわらず、兵庫県下においては大変めずらしい種類となり、わずかに明石市公園、同江井ヶ島、篠山の3カ所で計3頭が採集されたという記録が残っているにすぎない。この度この西播の蝶の Fauna をまとめるため当地方の同好の志からのデーターを調べていたところ、相生市矢野町において2♀♀が採集されていることが判明した次第である。さっそく採集されたと思われる個体を調査したところ標本は完全品であった。採集者の弁によると、採集場所は相生市矢野町瓜生より三濃山に登る登山路であり瓜生のバス停より徒歩30分程度の所とのことである。当地には本種の食草と考えられるマテバシイ、シリブカガシなどは今までのところ目にふれたことがないからして、何を食べているのか不明であるが、ムラサキシジミ同様アラカシ、アカガシなどの可能性が最も強い。

本種の越冬態は成虫であり、九州南部の観察記録では第1化成虫は5月下旬より出現し、6月上~中旬が最盛期となるらしい。さらに第2化は7月中旬、第3化は8月中旬、第4化は9月下旬より出るとのことで、さらに場合によっては第5化の発生が考えられるとのことである。当地方における発生回数はわずか2例しか採集されていないところからつまびらかではないが、この採集個体が完全品であり、しかも採集月日が9月1日と8月21日であるところから考えて2、3回程度ではないかと思われる。

- 1963.9.1, 1♀, 0, +, 相生市矢野町三濃山 (米村)
- 1966.8.21, 1♀, 1, +, " (山口)

13. *Niphanda fusca shijima* Fruhstorfer

(クロシジミ)

アリと共生していることで有名な蝶であり、自分の尾部より出す蜜のために、アリ(クロオアリ)によって巣の中にはこびこまれ、その中で羽化することで有名である。幼虫の令期は4令であり、1~2令までは地上でアブラムシの出す蜜をなめて生育しているが、3令になるとアリの巣の中に運びこまれ、このままで越冬し翌春4令でもってアリの巣の中で蛹化する。本州、四国、九州に分布していることが知られているが産地は局部的傾向が強い。当地方においては現在までに知られている産地は赤穂郡西部の大山寺や相生市北部の三濃山一帯および赤穂市有年であるが、いずれも多産するといった程度のものではない。これら採集個体はいずれも7月下旬~8月上旬までのラベルが付してあるところから、当地方においては7月中旬頃より羽化するのであろう。

- 1956.7.8, 2♀♀, 1, +, 赤穂市有年(橋本)
- 1962.7.19, 1♂, 1, +, 相生市矢野町三濃山
(米村)
- 1962.8.21, 1♀, 2, +, " "
(")
- 1966.7.17, 1♂, 1, +, 相生市矢野町能下
(中浜)
- 1966.7.17, 2♂♂, 1, +, 相生市矢野町三濃山
(中浜)
- 1966.7.20, 1♂, 3, +, " "
(米村)
- 1966.7.20, 1♀, 1, +, " "
(宮崎)
- 1966.8.2, 1♀, 2, +, 赤穂郡上郡町富満
(米村)
- 1966.8.2, 1♀, 2, +, " "
(中浜)
- 1957.8.4, 1♀, 0, +, 赤穂郡上郡町大山寺
(唐土)

14. *Zitina otis emelina* de l' Orza

(シルビアンジミ)

近縁のヤマトシジミと類似しているがために同定上のあやまりをしている記録がしばしば見られるところからして、これまでの小・中学生による採集記録に関しては、その一つ一つについてよく検討してみる必要のある種類である。ヤマトシジミと同様道端や海岸線や、さらに河川の草原などにおいてその姿を見うけることが多いが、食草がミヤコグサと限定されているところからその産地はヤマトシジミに比して極在の傾向が強く、これまでのところ赤穂市においては上飯屋新港、千種川堤防野中付近、同大津付近に産することが知られているにすぎない。相生市においては1967年に入って相生市矢野町瓜生である程度の個体が採集されているが多くないようである。

以上のごとく産地はごく限られたせまい範囲であるにもかかわらず個体数は少なくない方で、特に赤穂市上飯屋新港では普通種ヤマトシジミより多い程である。

年間の発生回数は4~5回に及ぶらしく、第1化は4月より発生し11月中旬までその姿を見うけることが出来るが、第3~4化と考えられる7月下旬~8月上旬にかけての個体が最も多いようである。

- 1963.8.5, 12♀♀, 6♂♂, 赤穂市上飯屋新港
(西垣)
- 1963.9.7, 2♂♂, 0, +, 赤穂市野中(西垣)
- 1963.9.7, 1♀, 3♂♂, 0, +, " (滝井)
- 1967.7.4, 3♂♂, 8♀♀, 相生市瓜生(唐土)

15. *Paranepthis pryeri* Butler

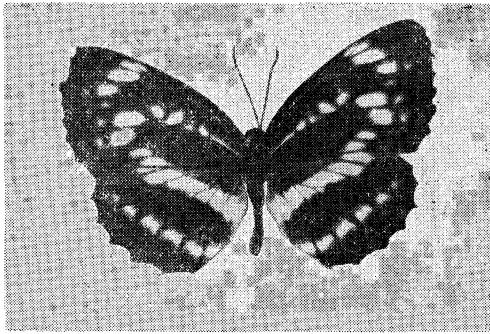
(ホシミスジ)

県下においては須磨離宮道、西宮市甲山付近、宝塚ファミリーランド、印南郡城山、養父郡関宮町、同大屋町、さらに多井畑、大山寺、楯谷、須磨寺、山の街、有馬、御影など六甲山塊を中心に広く採集されている。また、西播では古くから佐用郡下で産地がみつかり、最近姫路市書写山でも成虫が採集されるに至ったが(西播の蝶分布資料(1):兵庫生物Vol.4, No.2:岩村中谷), 赤相においても新産地が発見されるに至り、近県の大府や岡山県の産地とも考え合わせてみると、当地方では瀬戸内海沿岸に点々と産地が点在していることがわかる。

現在までのところ当地方において本種が確実に産することの判明しているのは相生市大谷町の大谷川にかかっているダム付近と同小河および赤穂市坂越の3カ所であるが、これらの地方では発見後も毎年採集されており、食草も分布しているところからして、これら地方で毎年発生を繰り返していることは間違いあるまい。

現在までのこの3カ所の産地における観察より推察して本種の年間発生回数は2回であろうと考えられるが(5月下旬, 7月中旬), 姫路地方においては9月にも新鮮な個体が採集された記録(1960.9.9, 2♂♂, 1♀, 0~1, +, , 姫路市書写山, 岩村)があり、これから考えると年3回の発生を繰り返している可能性もある。赤穂市における産地は北側が山、南に田畑の広がる道路にそった山すそであり、マツにまじって食草のシモツケ、コデマリなどが自生している何のへんてつもない環境であるが、最近道路の拡張工事をはじめしているところからして、せつかくの本種もこの地方から姿を消してしまうのではないかと心配されている。一方、相生市大谷町の産地へは実際に筆者が出かけて採集したわけではないので現地の状況は不明であるが、発見者(米村和重氏)の弁によれば、大谷川にあるダムのすぐ上流であるとのことである。

- 1957.6.20, 1♂, 相生市大谷町(唐土)
- 1956.7.8, 1♂, 1♀, 0, +, " (橋本)
- 1961.7.3, 1♂, 0, +, " (米村)
- 1962.7.19, 1♀, 0, +, 赤穂市野中(西垣)
- 1963.7.5, 1♂, 0, +, 相生市大谷町(米村)
- 1963.7.22, 2♂♂, 0, +, 赤穂市野中(滝井)
- 1966.5.26, 1♂, 0, +, 相生市大谷町(中浜)
- 1966.5.27~29, 3♂♂, 0, +, " (")
- 1966.7.12, 2♂♂, 0, +, " (唐土)
- 1966.7.15, 1♂, 0, +, " (米村)
- 1966.7.26, 2♀♀, 0, +, 相生市矢野町小河
(花岡)

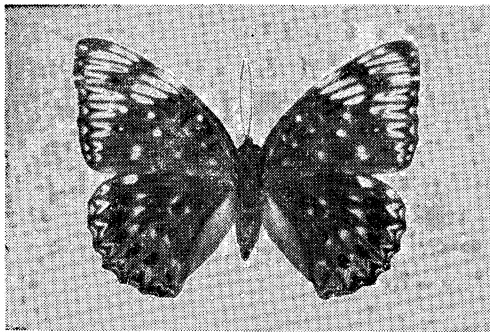


写真⑦ ホシミスジ ♀表

16. *Dichorraga nesimachus*
nesiotes Fruhstorfer
(スミナガン)

北海道を除く日本各地に産するが食草(アワブキ)の関係から産地は局在する。赤相においては現在までのところ相生市矢野町三濃山山頂付近と三濃山より鞍居へぬける山道に産することが知られているが個体数は多くないようである。年2回の発生であるが当地においては第1化と考えられる個体は発見されておらず、これまで採集されているのはいずれも7~8月にかけての、おそらく第2化と考えられる個体のみである。屋久島や、群馬県三国峠における筆者の成虫観察では、本種の成虫はあまり切り開かれたような草原をとり回るようなことはなく、主として弱い光のさしこむ林中をとりながら、木々の枝を次々と飛びかわり、樹木の幹や枝にとまるのがしばしば見られ、また、樹液に集まることも多いようである。したがって1頭を発見すれば次々と新個体を発見することが可能である。

○1957.8.1, 2♂♀, 相生市矢野町三濃山(唐土)



写真⑧ スミナガン ♂表

17. *Lethe marginalis* Motschulsky
(クロヒカゲモドキ)

北海道を除く本州、四国、九州に産することが知られているにもかかわらず個体数は少なく、産地も局在しているがために筆者もこれまでに群馬県三国山において1

♀を採集した経験があるのみである。当地においてもこれまでに採集されている個体数は極めて少なく、産地も相生市矢野町三濃山山頂付近に限られている。採集者の話によれば頂上近くの林中やクマザサの茂る荒地において毎年少しではあるが採集出来るそうで、手元にある採集記録によれば、一番早いもので7月3日、おそいもので8月27日のデータが残っている。年1回の発生であり、食草としてはススキ、ササなどのイネ科植物が知られている。

○1956.8.4, 1?, 0, +, 相生市矢野町三濃山
(橋本)

○1957.8.4, 1♂, 0, +, " (唐土)

○1958.8.?, 1♀, 0, +, " (")

○1963.7.3, 1♂, 0, +, 相生市矢野町能下
(米村)

○1966.8.?, 1♂, 0, +, 相生市矢野町三濃山
(")

○1966.8.27, 1♀, 1, 0, " (")

18. *Coenonympha oedippus annulifer* Butler
(ヒメヒカゲ)

本州の山地の草原に多く、県下においても段ヶ峰、峰山などの山間部の草原に多産することが知られている。当地においては相生市天下台の山頂近くや、同市佐方の荒地に産することが知られており、県下のみならず他府県においてもこのような海岸近くの産地は知られていないのではないであろうか。6月中旬頃に新鮮な個体がみられ、山間部の峰山、段ヶ峰などの山地が7月上旬であることからして、半月ほどその発生が早いようである。年1回の発生で越冬態は幼虫であるが、翌年5令でもって終令に達し蛹化する。

本種の翅裏面の眼状紋の発達には相当の個体変異があり、前翅の眼状紋は♂では2個、♀では3個、後翅においては5個存在するのが普通であるが、これらの斑紋がはっきりと現われるものから一部消失したもの、さらに極端なものでは前翅の眼状紋が全部消失したものまでいろいろのものが採集出来る。

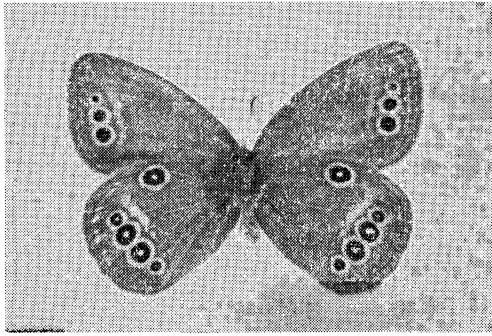
○1956.6.25, 1♂, 0, +, 相生市大谷町天下台
(橋本)

○1962.6.24, 1♂, 0, +, " (米村)

○1963.6.20, 19♂♂, 8♀♀, 0~1, +, " (")

○1964.6.13, 1♂, 2♀♀, 0~1, +, 相生市佐方
(岩村)

- 1966.6.11. 2♂♂. 0. +. 相生市佐方 (中浜)
 ○1966.6.25. 1♂. 0. +. " (米村)



写真⑨ ヒメヒカゲ ♀裏

IV] 当地方産蝶類一覧

- **Hesperiidae** (セセリチョウ科)
1. *Erynnis montanus* Bremer (ミヤマセセリ)
 2. *Daimio tethys daiseni* Riley (ダイミョウセセリ)
 3. *Choaspes benjaminii japonica* Murray (アオバセセリ)
 4. *Potanthus flavum* Murray (キマダセセリ)
 5. *Thymelicus sylvaticus* Bremer (ヘリグロチャバネセセリ)
 6. *Ochlodes ochracea rikuchina* Butler (ヒメキマダラセセリ)
 7. *Ochlodes venata herculea* Butler (コキマダラセセリ)
 8. *Thoessa varia* Murray (コチャバネセセリ)
 9. *Isoteinon lamprospilus* C. et R. Felder (ホソバセセリ)
 10. *Polytremis pellucida* Murray (オオチャバネセセリ)
 11. *Parnara guttata* Bremer et Grey (イチモンジセセリ)
 12. *Pelopidas mathias oberthuri* Evans (チャバネセセリ)
 13. *Aeromachus inachus* Menetries (ホンチャバネセセリ)
- **Papilionidae** (アゲハチョウ科)
14. *Luehdofia puziloi inexpecta* Sheljuzhko (ギフチョウ)
 15. *Byasa alcinous* Klug (ジネコウアゲハ)
 16. *Graphium sarpedon nipponum* Fruhstorfer (アオスジアゲハ)
 17. *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder (キアゲハ)
 18. *Papilio xuthus* Linne (アゲハチョウ)
 19. *Papilio protenor demetrius* Cramer (クロアゲハ)
 20. *Papilio macilentus* Janson (オナガアゲハ)
 21. *Papilio memnon thunbergii* von Siebold (ナガサキアゲハ)
 22. *Papilio helenus nicconicolens* Butler (モンキアゲハ)
 23. *Papilio bianor dehaanii* C. et R. Felder (カラスアゲハ)
 24. *Papilio maackii tutanus* Fenton (ミヤマカラスアゲハ)
- **Pieridae** (シロチョウ科)
25. *Pieris rapae crucivora* Boisduval (モンシロチョウ)
 26. *Pieris melete* Menetries (スジグロシロチョウ)
 27. *Anthocaris scolymus* Butler (ツマキチョウ)
 28. *Gonepteryx mahaguru nipponica* Verity (スジボソヤマキチョウ)
 29. *Eurema hecabe mandarina* de l' Orza (キチョウ)
 30. *Eurema laeta bethesba* Janson (ツマグロキチョウ)
 31. *Colias erate poliographus* Motshulsky (モンキチョウ)
- **Lycaenidae** (シジミチョウ科)
32. *Narathura japonica* Murray (ムラサキンジミ)
 33. *Narathura bazalus turbata* Butler (ムラサキツバメンジミ)
 34. *Aetopoetes pryeri* Murray (ウラゴマダランジミ)
 35. *Ussuriana stygiana* Butler (ウラキンジミ)
 36. *Japonica lutea* Hewitson (アカンジミ)
 37. *Japonica saepestriata* Hewitson (ウラナミアカンジミ)
 38. *Antigius attilia* Bremer

- (ミズイロオナガシジミ)
39. *Antigius butleri* Fenton
(ウスイロオナガシジミ)
40. *Wagimo signata* Butler
(ウラミスジシジミ)
41. *Favonius saphirinus* Staudinger
(ウラジロミドリシジミ)
42. *Favonius orientalis* Murray
(オオミドリシジミ)
43. *Favonius latifasciatus* Shirozu et Hayashi
(ヒロオビミドリシジミ)
44. *Neozephyrus taxila japonicum* Murray
(ミドリシジミ)
45. *Rapara arata* Bremer
(トラフシジミ)
46. *Ahlberhia ferrea* Butler
(コツバメ)
47. *Taraka hamada* Druce
(ゴイシシジミ)
48. *Lycaena phlaeas daimio* Seitz
(ベニシジミ)
49. *Niphanda fusca shijima* Fruhstorfer
(クロシジミ)
50. *Lampides boeticus* Linne
(ウラナミシジミ)
51. *Everes argiades hillotia* Menetries
(ツバメシジミ)
52. *Tongeia fischeri* Eversmann
(クロツバメシジミ)
53. *Zizeeria maha argia* Minetries
(ヤマトシジミ)
54. *Zizina otis emelina* de l' Orza
(シルビアシジミ)
55. *Celastruna argiolus ladonides* del' Orza
(ルリシジミ)
- **Nymphalidae** (タテハチョウ科)
56. *Argynnis anadyomene midas* Butler
(クモガタヒョウモン)
57. *Argynnis paphia geisha* Himming
(ミドリヒョウモン)
58. *Damora sagana liane* Fruhstorfer
(メスグロヒョウモン)
59. *Argyronome laodica japonica* Menetries
(ウラギンスジヒョウモン)
60. *Argyronome ruslana lysippe* Janson
(オオウラギンスジヒョウモン)
61. *Fabriciana adippe pallescens* Butler

- (ウラギンヒョウモン)
62. *Argyreus hyperbius* Linne
(ツماغロヒョウモン)
63. *Ladoga camilla japonica* Menetries
(イチモンジチョウ)
64. *Ladoga glorifica* Fruhstorfer
(アサマイチモンジチョウ)
65. *Neptis aceris intermedia* W. B. Pryer
(コミスジ)
66. *Paraneptis pryeri* Butler
(ホシミスジ)
67. *Araschnis burejana strigosa* Butler
(サカハチチョウ)
68. *Vanessa cardui* Linne
(ヒメアカタテハ)
69. *Vanessa indica* Herbst
(アカタテハ)
70. *Kaniska canace no-japanicum* von Siebold
(ルリタテハ)
71. *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel
(ヒオドンチョウ)
72. *Polygonis c-aureum* Linne
(キタテハ)
73. *Apatura ilia substituta* Butler
(コムラサキ)
74. *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer
(スミナガン)
75. *Hestina japonica* C. et R. Ferder
(ゴマダラチョウ)
76. *Sasakia charonda* Hewitson
(オオムラサキ)
- **Curetidae** (ウラギンシジミチョウ科)
77. *Curetis acuta paracuta* de Niceville
(ウラギンシジミ)
- **Danaidae** (マダラチョウ科)
78. *Caduga sita nipponica* Moore
(アサギマダラ)
- **Lybytheidae** (テングチョウ科)
79. *Libithea celtis celtoides* Fruhstorfer
(テングチョウ)
- **Satyridae** (ジャノメチョウ科)
80. *Yptima artus* Butler
(ヒメウラナミジャノメ)
81. *Ypthima motshulskyi* Bremer et Grey
(ウラナミジャノメ)
82. *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky
(ジャノメチョウ)

83. *Mycalesis gotama fulginis* Fruhstorfer
(ヒメジャノメ)
84. *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson
(コジャノメ)
85. *Lethe diana* Butler
(クロヒカゲ)
86. *Kirrodas sicelis* Hewitson
(ヒカゲチョウ)
87. *Lethe marginalis* Motschulsky
(クロヒカゲモドキ)
88. *Neope goschkevitchii* Menetries
(キマダラヒカゲ)
89. *Coenonympha oedippus annulifer* Butler
(ヒメヒカゲ)

V] おわりに

現在までに当地方で確実に棲息していることを確認したのは上記の9科89種であるが、これは現在までに県下に産するとされている種類の約7%に相当する。赤相のような海岸地方においてこれだけの種類が見られるということは大変に興味のあることであろう。現在までにわかっているわが国の蝶に関する知識をもって考えてみた場合、大体において発見されるべきものは発見されつくした感じであり、今後調査することによって発見されるという可能性を残している種類はギンイチモンジセセリ、スジグロチャバネセセリ、ウスバシロチョウ、エブスジグロシロチョウ、メスアカミドリシジミ、キマダラルリツバメンジミ、ハヤシミドリシジミ、スギタニルシジミ、オオウラギンヒョウモン、ミスジチョウ、オオヒカゲ、キマダラモドキなど、ごくわずしか残されていない。これらの内キマダラモドキ、キマダラルリツバメの2種に関しては近くの姫路市や竜野市において産地が見つかり、近いうちに必ず当地においても発見されるものと思われるが、現在までの調査においては発見されていないものである。一方相生市や赤穂郡の一部にはナラガソウが生えている所がいくらかあり、以北の佐用郡などのやや高地に入ると、これらを食するハヤシミドリシジミやジョウザンミドリシジミが採集されているところから、あまり期待は出来ないにしても、これら種類の発見される可能性も残されている。また、近くの山崎町においてメスアカミドリシジミを採集した経験もあるので (*Crysozephyrus smaragdinus* Bremer)、サクラの木の近くを探せば本種の産する可能性もある。

ウスバシロチョウに関しては5月上旬頃、何回となく可能性のある所を採集して歩いたのであるが、今だにその姿を見たことがない。現在確実に本種が産することが知られている当地方に一番近い既産地は雪彦山であり、これが本県におけるこれまでの一番南の産地と考えられ

ているが、当地方においても食草のムラサキケマンはいくらか生えているので、いずれ将来産地が発見されるものと確信している。エブスジグロシロチョウに関しては、スジグロシロチョウと混同されやすく、この同定上の困難性もあって現在までに本種の採集されたというデータはえられていない。他の地方の状態から判断して必ず当地方に産するものとは確信しているが、過去5年間のデータからでは何ともいえない。

当地方は県下の瀬戸内に面している明石、高砂、姫路などの地区に比べると、そこに産する蝶のFaunaはその種類数が多く、これらの中にはホンチャバネセセリやヒメヒカゲ、クロヒカゲモドキのようなやや山地性と考えられている種類から、反対にムラサキツバメンジミなどの南方系の種類まで比較的珍らしいとされている種類も含まれている。また、台風シーズンには南方の台湾、フィリピンなどの国々から風によってこぼれて来た迷蝶(例えば、メスアカムラサキ)の採集も考えられるなど、今後さらに興味ある種類が増加する楽しみも残されている。

最後に、この項をまとめるにあたって貴重なデータを提供して下さった唐土、米村の両氏をはじめとする西播磨虫の会の会員の諸氏および赤穂高校卒業生の西垣、滝井の両君、さらにまた、いろいろと蝶の産地や習性に関してご教授下さった山本広一氏に対し深く感謝の意を表します。

参考文献

- 中谷貴寿・岩村 巖：(1961)、西播の蝶分布資料(1)、兵庫生物、Vol. 4, No. 2, p.135~136
- 中谷貴寿・岩村 巖：(1962)、西播の蝶分布資料(2)、兵庫生物、Vol. 4. No. 3~4, p. 1~2
- 岩村 巖：(1965)、西播の蝶分布資料(4)、自刊、
- " : (1964)、西播におけるヒロオビミドリシジミの分布に関して、兵庫生物、Vol. 5, No. 1 p.24~25
- 山本広一・吉阪道雄：(1958)、兵庫県産蝶類目録(1)、兵庫生物、Vol. 3, No. 4, p.72~81
- " . " : (1959)、兵庫県産蝶類目録(2)、兵庫生物、Vol. 3, No. 5, p.151~162
- " . " : (1960)、兵庫県産蝶類目録(3)、兵庫生物、Vol. 4, No. 1, p.37~44
- " . " : (1965)、兵庫県産蝶類目録(4)、兵庫生物、Vol. 5, No. 1, p.52~55
- 山本広一：(1966)、兵庫県下のナガサキアゲハについて(1)、兵庫生物、Vol. 5, No. 2, p.151~157
- 白水隆・原 章：(1960)、原色日本産蝶類幼虫大図鑑 Vol. 1, Vol. 2, (保育社)
- 白水 隆：(1960)、原色台湾蝶類大図鑑 (保育社)
- " : (1959)、原色昆虫大図鑑、Vol. 1, 蝶の部 (北隆館)
- 八木誠政：(1957)、昆虫学本論 (養賢堂)